

令和 5 年度 城山西小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

「人間尊重」の教育を基礎とし，知・徳・体の調和のとれた心身ともに健康で，思いやりのある豊かな心を持ち，確かな学力を身に付けた社会の一員としてたくましく生きる児童を育成する。

- 情操豊かで，思いやりのある子ども（やさしく）
- 自ら学び，よく考える子ども（かしこく）
- 健康で，やりぬく子ども（たくましく）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

平成 17 年度より小規模特認校に指定され，特色ある教育活動を推進してきた結果，学校統廃合の危機を脱することができ，伝統ある学校として存続している。また，平成 27 年度の小規模特認校 10 周年を機に，「小規模特認校 第 2 ステージ ～新たな学校の創造～」の取り組みを展開している。

今後，本校がさらに発展していくためには，縦軸（人材育成と伝統の再構築）の視座に立った協働の展開と横軸（確かな教育活動と市内への P R）の視座に立った教育活動の展開が不可欠となる。P D C A サイクルを活かしながら活動の展開と改善を重ね，立体的な発展を遂げていきたい。

前述を踏まえ，「小さな学校だからこそできること」をコンセプトとした本校の特色ある教育活動を推進し，今年度より，特に以下の二点に力点を置きながら，「魅力あふれる学校」を創り上げる。

- （１）「未来を創る」をキーワードに，使命感と愛情をもった教職員の教育力の向上，縦割り班活動を核とした兄弟のような児童同士のつながりの強化，学校・保護者・地域の協働による信頼関係の構築に努める。（人材育成と伝統の再構築）
 - （２）「確かな力」をキーワードに，知・徳・体のバランスのとれた力を育む。また，活動の様子や成果を学校だよりやホームページ，ポスター等で市内に広く周知していく。（確かな教育活動・特色ある教育活動と市内への P R）
- そして，107 人全員の笑顔輝く城山西小学校を目指すとともに，本校を希望して入学する児童数の維持・拡大に努める。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- （１）学校・地域・行政が一体となった「新たな学校の創造」を推進するため，教職員の適材適所を図り，本校の実情に即した教育課程の編成と実践に努める。また，教育者としての使命感と愛情をもった教師力の向上に努めるとともに，業務の効率化を図り，労働時間の適正化に努める。（学校運営の適正化）
- （２）児童一人一人のよさを認め励まし，自己肯定感を育み，居がいのある学校・学級づくりに努める。（学級経営の充実）
- （３）道徳科の授業の充実と努めるとともに，地域のよさを生かした体験的な学習や読書指導，縦割り班（なかよしグループ）活動の活性化により，他人を思いやる心豊かでたくましい児童を育む。（豊かな心の育成）
- （４）学力の基礎・基本の定着を図り，それらを活用する力を育成するとともに，体験的な学習や問題解決的な学習を通して，学ぶことの楽しさや成就感を体得させ，自ら学び自ら考える力の育成に努める。（学習指導の充実）
- （５）進んで運動に親しみ継続できるような手立てを工夫するとともに，保健・安全指導の充実と努める。（体力向上と保健安全教育の充実）
- （６）学校・家庭・地域・行政と連携を密にしながら，小規模特認校として魅力ある開かれた学校づくりに努める。（魅力ある学校づくりの推進）

4 教育課程編成の方針

- （１）基本方針

県の「とちぎ教育振興ビジョン」宇都宮市の教育の指針に従い，教育課程の編成に努める。また，地域とともにある学校づくりを推進するため，地域協議会の意見を踏まえながら教育課程を編成し，開かれた育活動を推進していくとともに，児童の発達段階に考慮し，家庭・地域・企業等と連携し，地域の教育力を生かした特色ある教育活動の充実を図る。
- （３）留意点
 - ・基礎的・基本的な地域及び技能を確実に習得させること，問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の力を育むことのバランスを考慮して教育課程を編成し，カリキュラムマネジメントの充実と努める。
 - ・学校マネジメントシステムを有効活用し，地域協議会委員の意見を生かした教育課程の編成に努める。
 - ・学校便りの地域への回覧や，ホームページの適宜更新をとおして，学校の教育活動に対する家庭・地域への積極的な情報提供を行う。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

（１）学校運営

- ・ 全職員による指導体制を確立し、報告・連絡・相談の励行に努める。
- ・ 多様な専門スタッフとの連携によるチーム力の向上を図る。
- 小中一貫教育の検証・見直しを行い、義務教育９年間を見据えた教育活動に努める。
- 業務を効率化し、労働時間の適正化を図る。

（２）学習指導

- 読む力、書く力、聞く力、話す力など、「学力の基礎基本」の確実な定着を図る。
- ・ 一人一台端末を活用した授業や家庭学習を積極的に取り入れ、学習内容の定着を図る。
- ・ 教材やＩＣＴ等を効果的に活用しながら、「はつきり」「じっくり」「すっきり」を踏まえた授業展開を図る。
- ・ 児童の多様な考えを教師が適切にコーディネートしながら、探索的な学び合いの充実を図る。
- 教科等横断的な視点で教育課程を編成し、SDGs等の現代的な諸課題に対応できる力を育む。
- ・ 地域の人材が活躍できる場を積極的につくり、体験的な学習を意図的・計画的に位置づける。

（３）児童生徒指導

- 日々、気持ちのよいあいさつが飛び交い、時と場に応じた言葉を交わし合う学校を目指す。
- ・ 「自分がされていやなことは、人にしない・言わない」態度を生活に根付かせる。
- ・ 道徳科の授業の充実に努め、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育成する。
- ・ 高学年が低学年の児童を兄弟姉妹のように面倒を見るという伝統を大切にしていく。
- 宇都宮学や地域の教育資源の活用に積極的に取り組み、郷土を誇りに思う気持ちを育てる。
- ・ 「挑戦する」「がまんする」「あきらめない」活動を通して、児童に達成感や成就感を味わわせ、たくましさを滋養する。

（４）健康（体力・保健・食・安全）

- 地域学校園内小学校で統一した各種検定カードや教科体育を通して、体力の向上と運動に親しもうとする態度や能力の育成に努める。
- ・ 新型コロナウイルス等の感染症予防について正しく理解し、適切な行動がとれる児童の育成に努める。
- ・ 食農体験を通じた食育の推進に努める。
- ・ 交通安全指導や避難訓練等を通して、児童の危険予測・危機回避能力の向上に努める。

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

第２次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1ー(1) 確かな学力を育む教育の推進	A1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 アンケートの「児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 85%以上	① 「城西小よいこの一日学習編」をもとに、基本的な学習態度について共通理解を図り指導に当たる。 ② 児童が他者と協力して取り組む学びとなる授業展開を工夫する。 ③ 会話科の授業で他者とのやりとりを充実させ、よく聴き分かりやすく発表する技能を高める。	A	【達成状況】 児童の肯定的回答 86.3% 教職員の肯定的回答 100% 保護者の肯定的回答 85.7% 【次年度の方針】 ・保護者への発信の機会を増やしたい。 (学年だより・授業参観などで)「他者と協力して」という点が、従来になかった点。各学級の授業で工夫を図っていく。

1ー(2) 豊かな心を 育む教育の 推進	A2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 アンケートの「児童は、思いやりの心をもっている。」 ⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 85%以上	① 道徳の時間の指導を要とし、各教科領域、特に児童指導との連携をとり、教職員が共通理解のもとに足並みをそろえて児童の規範意識を高めていく。 ② 縦割り班での活動や共遊の時間を大切にし、児童同士あるいは児童と教師が豊かな心のふれあいができるようにする。 ③ 会話科（ことばの時間）等の学習を通して、コミュニケーション力を高め、互いの気持ちを伝えられるようにする。 ④ 盲学校との交流を継続し、心のふれあいを通して、障がいに対する理解が深められるようにする。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 95.8% 教職員の肯定的回答 100% 保護者の肯定的回答 96.2% 地域住民の肯定的回答 100% ・道徳の公開研究授業を作る過程で、年間を通じて各学年で育ててきた心である。 【次年度の方針】 ・今後も縦割り班活動や盲学校との交流、学習支援ボランティアとかかわる授業を実施することで、一層養っていきたい。
	A3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 アンケートの「児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 85%以上	① 漢字や計算、運動の検定や各大会などの教育活動を設定することで、児童が自ら目標を持って、進んで活動できるようにする。 ② 学期ごとに、学習と生活のめあてを立てて、その達成状況を学期末に振り返る。	A 【達成状況】 児童の肯定的回答 87.4% 教職員の肯定的回答 81.3% 保護者の肯定的回答 78.8% ・各立場で、他の項目よりも低い。特に、子供に対する大人の回答が低いことから、客観的に見て「粘り強さに欠ける」という判定をしている。 【次年度の方針】 ・教職員として、粘り強く取り組む姿勢を育てる工夫と称賛、保護者への発信を強調したい。
1ー(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 アンケートの「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 85%以上	① 感染症予防を意識した新しい生活様式における基本的生活習慣の定着を図る。 ② 健康の保持増進を意識した生活を送ることができるよう、定期健康診断の結果を生かした指導や、バランスのとれた食事についてなど具体的な指導に努める。 ③ 避難訓練や交通安全教室などを計画的に実施し、安全を意識した生活ができるようにしていく。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 93.7% 教職員の肯定的回答 93.8% 保護者の肯定的回答 88.7% 地域住民の肯定的回答 100% 【次年度の方針】 ・感染症等の状況に合わせて適切な対応を検討し、規則正しい生活習慣による健康づくりを家庭と連携しつつ予防策に取り組んでいきたい。 ・栄養バランスについて授業や給食での学校栄養士の専門的な指導を継続する。
1ー(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 アンケートの「児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上	① キャリア教育を中心に、学校の教育活動全体で、自分の夢や目標をもち、それに向かって努力する大切さや喜びを実感できるようにする。 ② 文化人の先生や地域の方、保護者との多様なかわりを通して、他者と協力・協働していくことのよさに気付かせ、社会に参画していく心とする心を育てる。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 88.4% 教職員の肯定的回答 100% 【次年度の方針】 ・キャリアパスポートの活用をしたり、自分の夢や目標を学年に応じて具体的に指導したりする。 ・文化人の先生方との学習において、他者との協力の大切さを具体的に説明したり、子供たちの活動ぶりを見て意図的に称賛したりする。

2- (1) グローバル 社会に主体 的に向き合 い、郷土愛 を醸成する 教育の推進	A 6 児童は、英語を使って コミュニケーションして いる。 【数値指標】 アンケートの「児童は、英 語を使ってコミュニケーション している。」 ⇒児童・教職員の肯定的 回答 85%以上	① 授業を中心に、英語を使ってコミ ュニケーションを図ることの楽 しさを味わえるよう、指導を充実 させる。 ② 英会話タイムの充実を目指し、年 に数回校内研修を行い、教職員の 指導力の向上に努める。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 85.3% 教職員の肯定的回答 93.8% 【次年度の方針】 ・本校ならではの英語に特化した年間 指導計画に沿って指導していく。 ・校内研修で、コミュニケーションに軸 を置いた指導法を学び、よりいっそう指 導力の向上に努める。
	A 7 児童は、宇都宮の良さ を知っている。 【数値指標】 アンケートの「私は、宇都宮 の良さを知っている。」 ⇒児童・保護者・教職員の 肯定的回答 80%以上	① 社会科を中心に生活科や総合的な 学習の時間に、宇都宮市や城山地 域の、地理や産業・文化財などに ついて学ぶ機会を充実させる。 ② 宇都宮学の副読本を活用して家 庭とも連携しながら、自分たちの 住んでいる地域や、宇都宮のよさ を実感できるよう指導していく。	A 【達成状況】 児童の肯定的回答 83.2% 教職員の肯定的回答 100% 保護者の肯定的回答 73.5% ・昨年度とほぼ変わらない回答状況で 教職員はきちんと指導している意識だ が、児童、保護者の順で低い。 【次年度の方針】 ・授業で、きちんと実施していても、児 童への定着という点では至らず、さら に保護者にも何を学習しているのか伝わ っていない。学習内容の発信に努めた い。
2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A 8 児童は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 アンケートの「児童は、パ ソコンや図書等を学習に活用 している。」 ⇒児童・保護者・教職員 の 肯定的回答 85%以上	① 調べ学習や発展的な内容の学習 の時間において、ICT機器や図 書資料を有効に活用した活動が できるよう、指導を充実させる。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 89.5% 教職員の肯定的回答 100% 保護者の肯定的回答 92.6% ・個人用パソコンを活用した学習活動 は、ずいぶん定着してきた。 【次年度の方針】 ・今後は、図書資料も活用したり、パソ コンで調べる活動と図書資料活用を重 複させて裏付けをとる活動をしたりす るなど、子供が確かな情報を得て学習活 動に生かせるよう指導していきたい。
2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A 9 児童は、「持続可能な社 会」について、関心をも っている。 【数値指標】 アンケートの「児童は、環 境問題や防災等の「持続可能 な社会」について、関心をも っている。」 ⇒児童・教職員の肯定的 回答 80%以上	① 日々自分たちが行っている、ごみ の分別・リサイクル・節電・節水 や、PTA資源回収などの活動 が、身の回りだけでなく地球環境 の維持につながっていることを 意識させる。 ② 古賀志山清掃登山や裏山探検な どを理科や社会、総合の授業と、 関連させて、身近な自然を実感さ せ、自然の大切さを意識できるよ うな教育活動を展開していく。 ③ 本校は土砂災害警戒区域内にあ ることを意識させ避難訓練など で指導を継続していく。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 89.5% 教職員の肯定的回答 100% ・5年生の総合で、SDG'sの活動と して堆肥作りや野菜づくりを進め、自然 を尊ぶ心情を育成した。全学年での戸外 清掃登山や低学年の裏山探検などで自 然の大切さを感じられるよう指導をし た。 【次年度の方針】 ・自然に親しむ様々な活動が、「持続可 能な社会」へどう繋がるか、児童の具 体的な学習活動で強調して説明をし、意 識できるようにする。

3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 特別な支援が必要な児童の実態把握と、校内支援委員会やケース会議、情報交換会などを通じた情報の共有に努め、職員間で連携を図って適切な支援を行う。 ② 必要に応じて、SCやSSC、教育センター、病院、市役所等、各関係機関と連携し、適切な支援を行う。 ③ 家庭と密にコミュニケーションを図ることで信頼関係を築き、協力して支援・指導を行っていく。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答 100% ・校内教育支援委員会、職員会議後の児童指導連絡会において、特別な支援を要する児童について共通理解を図り、職員間で十分に連携し適切な支援を行うことができた。 ・個人懇談や毎日の送迎時に保護者との対話を密にし、保護者と同一歩調で支援・指導を行うことができた。 【次年度の方針】 ・全職員での児童の実態把握・と共通理解を進め、特別な支援を要する児童が安心して学校生活を送れるよう努める。
3- (2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 アンケートの「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。」 ⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 85%以上	① 児童集会等でいじめは絶対許されないことであるという指導を行う。 ② 教育相談やアンケートを実施し、いじめの起こらない環境づくりを推進する。 ③ 児童の些細な変化を見逃さないように教職員間で情報を共有し指導にあたるようにする。 ④ 学校だより等各種たより及び学級懇談会等を活用し、いじめアンケートの結果など、本校のいじめ防止の取組について情報を発信するとともに、各家庭と積極的に児童の様子などを情報交換する。 ⑤ 生活目標や学校のきまり、いじめ防止を強調した合言葉「自分がされていやなことは、人にしない・言わない」などを児童へ周知徹底する。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 96.8% 教職員の肯定的回答 100% 保護者の肯定的回答 85.7% 地域住民の肯定的回答 100% 【次年度の方針】 ・いじめ根絶集会で、委員会の児童による本の紹介をしたり、いじめゼロスローガンを児童の公募で考えさせ決定したりする。 ・児童の学校での様子、些細な行動の変化、気になる表情など教職員のみならず保護者とも連絡を密にとり、情報を共有することで、いじめの防止と早期発見に努める。 ・全教職員の共通理解として「自分がされていやなことは、人にしない・言わない」を徹底して指導していく。
	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 アンケートの「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 90%以上	① 学級・児童に関する情報交換会を職員会議後に開き、全教職員で情報を共有し、対応について共通理解を図る。 ② 児童が活躍できる場の設定や、努力やよさを認め励ます教育を推進する。 ③ 欠席児童に対する、電話連絡や家庭訪問など欠席が長期化しないように、初期対応を徹底する。 ④ 教育相談や個人懇談で得た情報は詳しく記録に残し、児童理解のために有効に活用していく。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 97.9% 教職員の肯定的回答 100% 保護者の肯定的回答 90% 【次年度の方針】 ・①～④の取組を継続して確実に実施し学級経営に生かすとともに、全教職員で組織的に対応する。
3- (3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るいきいきとした雰囲気である。	① 学校生活において、一人一人が生き生きと達成感を実感できるよ	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 97.9% 教職員の肯定的回答 100% 保護者の肯定的回答 86.3%

3-(4) 多様な教育 的ニーズへ の対応の強 化	【数値指標】 アンケートの「学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいそいそとした雰囲気である。」 ⇒児童・保護者・教職員・地域の肯定的回答 90%以上	うな活動の場を意図的に設け、自己肯定感の向上を図る。 ② 学校生活の様々な場面で縦割りによる交流活動の時間を工夫し、活動のめあてにあった支援を加えながら異学年でのふれあいの充実を図る。	地域住民の肯定的回答 100% 【次年度の方針】 ・次年度も、異学年での交流活動や達成感を実感できる活動の場を設け、児童一人一人が自己肯定感のある学校生活を送れるように努める。
4-(1) 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 アンケートの「教職員は、児童一人一人が理解できるように教材を工夫するなどきめ細かな指導をしている。」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 85%以上	① 学習のめあてや振り返りを大切に扱い、一人一人が分かる授業を実現する。 ② 少人数のよさを生かし、一人一人のつまずきに応じた個別指導を行うとともに、習熟度別学習、TT、かがやきルームの活用など学習形態を工夫し、一人一人を大切にした指導に努める。 ③ 学期ごとにまとめの月間を設定し、家庭にも周知を図って、一人一人の習熟に努める。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 95.8% 教職員の肯定的回答 100% 保護者の肯定的回答 87% 【次年度の方針】 ・今後も児童理解を図りつつ、様々な形態の授業や適切な指導・支援が行えるように、教職員間で連携を図り研修を深め実践していく。 ・行事だけでなく、授業での様子もホームページや学年だよりなどで積極的に発信するように努める。
4-(2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 アンケートの「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 専門的な業務において、学校図書館司書、AET、かがやきルーム指導員、スクールカウンセラーと連携・協働しながら業務を進めるように努める。 ② 教職員が教育活動において役割分担などを見直し、同僚性を発揮しながら取り組めるようにする。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答 100% 【次年度の方針】 ・学校に関わる全教職員が一つのチームとなって、より充実した教育活動を行うことができるように、引き続き協力して業務に取り組んでいく。
4-(3) 学校におけ る働き方改 革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 アンケートの「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 出退勤の記録を付けることで勤務時間について意識する。 ② PDCAサイクルによる教育課程の振り返りや、学校行事の精選、反省に基づくスリム化・効率化につながる改善を図る。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答 81.3% 【次年度の方針】 ・様々な業務のスリム化や効率化に取り組んでいるが、まだ簡素化削減できる仕事があるかもしれない。勤務時間を意識した働き方は、個人の意識を高めつつ教職員間でも互いに声をかけ合い進めていきたい。
5-(1) 全市的な学 校運営・教 育活動の充 実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、小学生や中学生が連携した取組を主体的に行っている。」 ⇒児童(5・6年)・保護者・地域・教職員の肯定的回答 80%以上	① 小中合同あいさつ運動、小中乗り入れ授業、6年生の中学校訪問など小中合同で行う取組を確実に実施し、活動の様子を各種便りやホームページで公開するよう努める。 ② 地域学校園内での各校の学校課題等の研修に積極的に参加し、協力して研修を進めていく。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 97.1% 教職員の肯定的回答 100% 保護者の肯定的回答 86.4% 地域住民の肯定的回答 100% 【次年度の方針】 ・小中合同あいさつ運動、お弁当の日や宮っ子チャレンジウィーク、地域合同運動会など限られた機会でも有効な活動ができるように、内容の検討や連絡調整を進めていく。

5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 85%以上	① 孝子桜まつり・古賀志山清掃登山・地域合同運動会などの行事を、学校・保護者・地域が連携して実施する。 ② 地域学校協働活動推進員を中心に学校を支援するボランティアを募り、学校・家庭・地域との連携、協力を深め、開かれた学校づくりに努める。 ③ 学校支援ボランティアの組織を充実させ、地域協議会の地域学校協働活動推進員を中心に、更に地域や保護者と連携させながら活動を展開していく。 ④ 地域の自然を生かした教材のカリキュラム化を図る。地域の教育資源を活用した教育活動を行う。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 93.7% 教職員の肯定的回答 100% 保護者の肯定的回答 83.7% 地域住民の肯定的回答 100% ・学校外との連携もコロナ禍以前のように戻ってきたが、コロナ禍の影響でPTA活動が停滞していたことも保護者の数値に影響が出たかもしれない。 【次年度の方針】 ・孝子桜まつり、古賀志山清掃登山、地域合同運動会など、地域と連携して実施する。 ・地域学校協働活動推進員と協力・連携し、開かれた学校づくりを推進していく。 ・学校外との連携が濃い本校ではPTAや地域へお願いする活動は今後も継続していくが、活動そのものの見直しや整理を進めていくことも必要。
6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 アンケートの「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒保護者・地域・教職員の肯定的回答 90%以上	① 児童や利用者が安全に利用できるよう、毎月の安全点検を確実に実施し対応が必要なところは、迅速に処理する。 ② 学校施設利用者や保護者へ、来校時の安全面での注意点やAEDの設置場所の周知、災害時の避難など危機に対応できるよう情報を提供する。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答 100% 保護者の肯定的回答 91.4% 地域住民の肯定的回答 100% 【次年度の方針】 ・安全点検を引き続き実施し、不具合箇所等の迅速な改善、修理を進める。 ・ホームページや各種お便りで、家庭や地域に、校内の安全対策についての取組を発信する。
6- (2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 アンケートの「コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 実物投影機・個人用パソコンなどのICT機器や、児童が活動で使う図書資料等を準備する。 ② ICT機器や図書資料を、授業等で児童が使用しやすくし、十分に活用できるよう、情報を提供したり、校内研修を行ったりする。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答 100% 【次年度の方針】 ・パソコンやICT機器、図書資料を適切に管理するとともに、児童の情報モラル教育の充実をいっそう図っていく。

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 85%以上	① 「いつでも・どこでも・だれにでもさわやかあいさつ」の合言葉のもと、児童会を中心に城山地域学校園で連携したあいさつ運動や「あいさつ広げ隊」の活動を継続する。 ② 登校指導の場では学校・地域・保護者で連携を図り、子供たちが気持ちよくあいさつができる環境を整えるとともに、あいさつの大切さを伝え、広げていく。 ③ 学級懇談会や個人懇談などで家庭内でのあいさつの様子について話題にするなど定期的に家庭でのあいさつ状況を振り返らせ、学校と家庭で足並みをそろえたあいさつの指導をしていく。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 93.7% 教職員の肯定的回答 87.5% 保護者の肯定的回答 80.8% 地域住民の肯定的回答 100% ・児童の意識よりも大人の回答は低い。一番身近な保護者は自分の（地域の）子供たちは、あいさつができていないと認識している。 【次年度の方針】 ・実際には、下校時に校長室や職員室を開けてまで元気にあいさつをしている一方で、朝の元気がない挨拶や目をあわせて挨拶できないも児童も多く見られる。廊下でのあいさつは比較的できている。朝や地域へ向けてのあいさつがポイントかもしれない。生きていく上で最低限の礼儀である挨拶については、いっそう強調して指導していかなくてはならない。
	B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、きまりやマナーを守って生活している」 ⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 85%以上	① 城山西小よい子の一日」を見直し、教職員が足並みをそろえて、粘り強く児童を指導していく。 ② 児童が秩序ある安全な学校生活を送れるように、年間を通して学級の行動目標を決めて指導していく。 ③ 学級や全体集会等の場を活用して、児童のよさを学校全体でほめることで、きまりを守る大切さを理解させ、やる気を引き出していく。 ④ 道徳の時間の指導を要とし、各教科領域との連携を図り、きまりやマナーの大切さについて指導を徹底することで、児童の規範意識を高めていく。学級だけでなく集会・朝会等の場を活用して、児童のよさを学校全体でほめることで、きまりを守る大切さを理解させ、やる気を引き出していく。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 95.8% 教職員の肯定的回答 87.5% 保護者の肯定的回答 93.9% 地域住民の肯定的回答 100% 【次年度の方針】 ・次年度も「城山西小よい子の一日」を周知徹底していく。細かなルールは、その都度、教職員で検討し共通理解を図り、指導を徹底していく。 ・全体の場合では、児童の良いところを重点的に褒め、指導すべきことは徹底して指導を図る。 ・道徳の各学年の重点項目を意識して計画的に授業を実践し、学校教育全体で児童の規範意識を高めていく。
本校の特色・課題等	B3 日本語や英語を使ったコミュニケーション能力を高めるための指導を推進している。 【数値指標】 アンケートの「教職員は児童が日本語や英語を使って進んで表現したりコミュニケーションしたりできるよう指導を工夫している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	① 英語や日本語によるコミュニケーション能力を伸ばすために独自の会話科・外国語活動の年間指導計画に基づき、計画的、系統的に指導を行っていく。 ② 英会話タイムを TT 体制で内容を充実させながら継続していくとともに、外国語の授業では、やり取りを重視した、楽しい授業作りを行う。 ③ 外国語活動や外国語については、中学校へのつながりを意識した研究を進めていく。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 84.2% 教職員の肯定的回答 100% 保護者の肯定的回答 91.7% 【次年度の方針】 ・英会話タイム、授業での充実を目指し次年度も定期的に校内研修を実施する。 ・生活の場で、英語に触れられる機会を増やすために、高学年児童による英語での校内放送の充実を図る。

	B 4 学校と地域・文化人と連携した学校教育活動を推進している。 【数値指標】 アンケートの「教職員は、保護者や地域住民・文化人と連携、協力した教育活動に積極的である」 ⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 85%以上	① 学校支援ボランティアの組織を充実させ、地域協議会の地域学校協働活動推進員を中心に、更に地域や保護者と連携させながら活動を展開していく。 ② 地域の自然を生かした教材のカリキュラム化を図る。地域の人々を積極的に講師として迎え入れた活動を行う。 ③ 豊かな感性を育てるため、芸術・文化の分野で活躍されている文化人の先生方による授業を行う。	【達成状況】 児童の肯定的回答 96.8% 教職員の肯定的回答 100% 保護者の肯定的回答 96.2% 地域住民の肯定的回答 100% 【次年度の方針】 ・引き続き、地域・文化人と連携した学校教育活動を推進するために、学校支援ボランティア活動の充実を図る。
	B 5 給食農園へのかかわりや農業体験学習を行い、食育指導との連携を図っている。 【数値指標】 アンケートの「農業体験活動を通して、大地の恵みに感謝する心を育てると共に食育の充実を図っている。」 ⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 90%以上	① 給食農園で地域の方との連携を深めたり、種まきから収穫まで児童が栽培に関わるように活動を充実させたりすることで、食に対する関心を高めたり、感謝の心を育成したりすることを目指す。 ② 地域の食材を積極的に利用し、安全でおいしい給食や特色ある給食を実施する。 ③ 給食の時間に、給食農園で取れた野菜や米、地域の食材を紹介することで、感謝の気持ちを育て、食農教育の充実を図る。 ④ 食育だより・給食だより・保健だよりを充実させ、保護者へも啓発していく。	【達成状況】 児童の肯定的回答 97.9% 教職員の肯定的回答 100% 保護者の肯定的回答 100% 地域住民の肯定的回答 100% ・学年をいくつか組合せ、交流給食を実施することができた。全児童・全職員での実施はできなかった。 【次年度の方針】 ・次年度も交流給食やランチルームでの給食実施については、国や県、市の意向を踏まえ、感染症の罹患状況を勘案して慎重に決定する必要がある。 ・作ってくださる人や自然の恵みへの感謝の気持ちをもつように働きかけ、残食への意識も育てるようにしていく。 ・給食農園で育てる野菜類は、児童主体で十分に育てられる品種に絞り、食農教育の点から、児童が達成感を味わえるとともに、自然への感謝の気持ちが育める活動内容にしていく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

総合的にみると、25項目のうち19項目で本校設定の児童・教職員・保護者・地域の数値目標を達成することができた。地域と教職員の数値目標に関しては、ほぼ達成できたといえる。一方、保護者の評価は肯定的割合の達成度に足りない点が見られた。

宇都宮市の平均値と比べてみると、教職員では25項目中23項目、保護者では18項目中14項目、地域では10項目すべてにおいて市の平均を上回っている。児童では、20項目中19項目が市の平均を上回った。

保護者の評価の詳細を見ると、「目標に向かって粘り強く取り組むこと」「宇都宮の良さを知っている」「時と場合に牡応じたあいさつをすること」が低い肯定的割合となっている。あいさつについては、児童の肯定的割合が93.7%であるので、家庭でのあいさつの習慣をさらに身に付けられるよう「いつでもどこでもだれとでも」あいさつができる環境づくりを進めていきたい。また、「うつのみやのよさ」の項目については、昨年度と同様に低い肯定的割合となっている。教職員はきちんと指導している意識だが、児童、保護者の順で低い。授業では、きちんと実施していても、児童への定着という点では至らず、さらに保護者にも何を学習しているのか伝わっていない現状である。指導を継続し、学習内容の発信に努めたい。

昨年度の保護者の肯定的割合が低いものに「いじめ対策」「不登校を生まない学級経営」が挙げられていた。今年度は、学校全体で重点的指導を行ってきたため、肯定的割合はそれぞれ5.7ポイント、8.5ポイント上がる結果となった。保護者との共通理解を図り、全教職員で対応したために理解が得られたものと考えられる。今回、保護者からいただいた意見を今後の学校運営に生かしていけるよう職員間で共通理解し、次年度へ向けた取組を考えていきたい。

次に児童の評価に目を向けると「うつのみやのよさを知っている」「コミュニケーションできる指導の工夫」の評価が比較的低いことが分かった。「うつのみやのよさ」については前述の通りである。コミュニケーションについては、本校の特色ある教育活動であることから、教職員が意識的に指導している分野である。児童としてはコミュニケーションそのものへの不安や、うまく自分を表現できない状況への意識があるのかもしれない。コミュニケーションは、日本語にしても英語にしても、日常会話でのやりとりや毎日の自己表出の在り方が問われる。児童のこの低い数値を意識してコミュニケーション力の伸長を考えた指導を続けていきたい。

また、本校独自の項目である「文化人と連携した教育活動」「食育の充実」については、いずれの立場からも高い数値が出ている。文化人の先生方の授業の意義や食育・農業体験への関わりなどの活動を振り返り、児童に十分な理解をさせた上で進めていけるとさらに充実した活動になっていくものと思われる。

【次年度に向けた取組】

今年度、肯定的回答割合が設定した数値指標に満たなかった項目、また、次年度改善や充実をさせたい項目は、以下のとおりである

◇ 肯定的回答率の低かった質問項目

- 1 「児童は、目標に向かって粘り強く取り組む」(数値目標 85%【教職員】肯定的回答率 81.3%
【保護者】肯定的回答率 78.8%)

<改善に向けた基本方針>

各立場で、他の項目よりも低い。特に、子供に対する大人の回答が低く、客観的に見て「粘り強さに欠ける」という実態を見ているものと思われる。また、大人の考える児童の取り組む姿勢が、児童がもつイメージよりも高いレベルにある可能性もある。教職員としては、粘り強く取り組む姿勢を育てるために、児童を称賛しながら様々な指導方法を工夫し、保護者への発信にも力を入れたい。

- 2 「児童は、宇都宮市の良さを知っている」(数値目標 80%【保護者】肯定的回答率 73.5%)

<改善に向けた基本方針>

保護者にとって、宇都宮市について何を学習しているのか伝わっていない現状である。学校としてはこれまで同様の指導を継続していくが、家庭との関りで学習活動を進める工夫をしたり、児童を通じて積極的に学習内容を発信したりするように努めたい。

- 3 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」(数値目標 85%【保護者】肯定的回答率 80.8%)

<改善に向けた基本方針>

児童の意識よりも大人の回答は低い。一番身近な保護者は自分の子供たちのあいさつができていないと認識している。実際には、下校時のあいさつは活発で、日中の廊下でのあいさつは比較的よくできている。朝や地域へ向けてのあいさつがポイントかもしれない。生きていく上で最低限の礼儀である挨拶については、学校としていっそう強調して指導していきたい。

7 学校関係者評価

地域協議会と学校に関すること

学校行事で、地域と密接に関わって協力体制のもと実施されるものが多い。今後、様々な行事が通常通りの実施に移行していく。しかし、現在、行事が縮小されている中で、今後どのように地域と関わりをもって進めていくかが課題である。地域と学校の協力体制を確認しながら、今後の教育活動について意見を交換していく必要がある。これまでの信頼関係を維持し、さらによりよい連携の形を模索していきたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

次年度に向けて次の4つの方策を立てて教育活動を進めていきたい。

- 1 「確かな学力」を育む教育の推進
 - ・基礎・基本の確立と定着
 - ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の構築
 - ・外国語科・外国語活動における自校化した「新・カリキュラム」の実践と改善
- 2 全教育活動での豊かな心を育む教育の推進
 - ・各授業の充実と研修体制の確立

- ・認め励ます教育や、縦割り活動、体験的な学習の推進
- ・「挑戦する」「がまんする」「あきらめない」活動を通した、たくましさの滋養
- ・「いじめゼロ」の実現（教職員の共通理解のもと「自分がされていやなことは人にしない・言わない」の継続指導）

3 「運動の日常化」と「体幹を鍛える運動の定着」による体力向上の推進

- ・各種検定カードの活用や教科体育時におけるサーキットトレーニングの時間の設定、休み時間の運動の推奨
- ・妻木律子先生による「体幹を鍛える運動」の指導と定着

4 「地域とともにある学校」づくりの推進

- ・地域協議会との連携の充実
- ・持続可能で発展的な行事内容の検討と実践

※創立150周年（令和7年度）を視野に入れた取組を計画的に実施していく。